

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立あこや学園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月28日		～ 令和6年12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	令和6年11月22日		～ 令和6年12月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数) 15人
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月28日		～ 令和6年12月6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1件	(回答数) 1件
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	丁寧なアセスメントによる個別支援計画の作成	双方にアセスメントシートの記入を依頼し、丁寧に状況の把握に努めている。また、訪問は時間帯を固定せず、さまざまな場面を把握しようとしている。	アセスメントシートの記入依頼に加え、必要に応じ実際場面を訪問してのアセスメントを行っていく。
2	訪問先施設の支援方針の尊重	訪問ごとに、訪問先施設と懇談を行い、支援についての方向性を確認したうえで、環境整備や支援方法について実践できる方法を提案している。	現状の取組を、丁寧に継続していく。
3	保護者との共通理解	訪問前に、保護者と連絡を取り現状の把握を行っている。また、訪問後は写真等も使いながら、支援について自宅でも取り組めるアドバイスを加え、丁寧な伝達を行っている。	現状の取組を、丁寧に継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多様な視点を取り入れた支援	訪問支援員に限られ、支援についてディスカッションする場が少ない。 多職種や複数での訪問ができていない。	保育所等訪問支援について、ディスカッションする機会を作っていく。 必要に応じ、多職種、複数での訪問を行っていく。
2	訪問支援の実施件数が少ない	児童発達支援の保育士が訪問支援員を兼務しているため、体制上、受け入れが困難となっている。	今後、職員体制の整備と合わせ、訪問支援を優先して行う職員を配置できるよう努めていく。
3	訪問支援員の育成	体制上、複数名で訪問し保育所等訪問支援を経験することが難しい状況となっている。 勉強会等実施しているものの、事例などを通し支援の実際について知る機会が少ない。	保育所等訪問支援の経験が少ない職員を、訪問支援に同行させる機会を作る。 保育所等訪問支援について、ディスカッションする機会を作っていく。